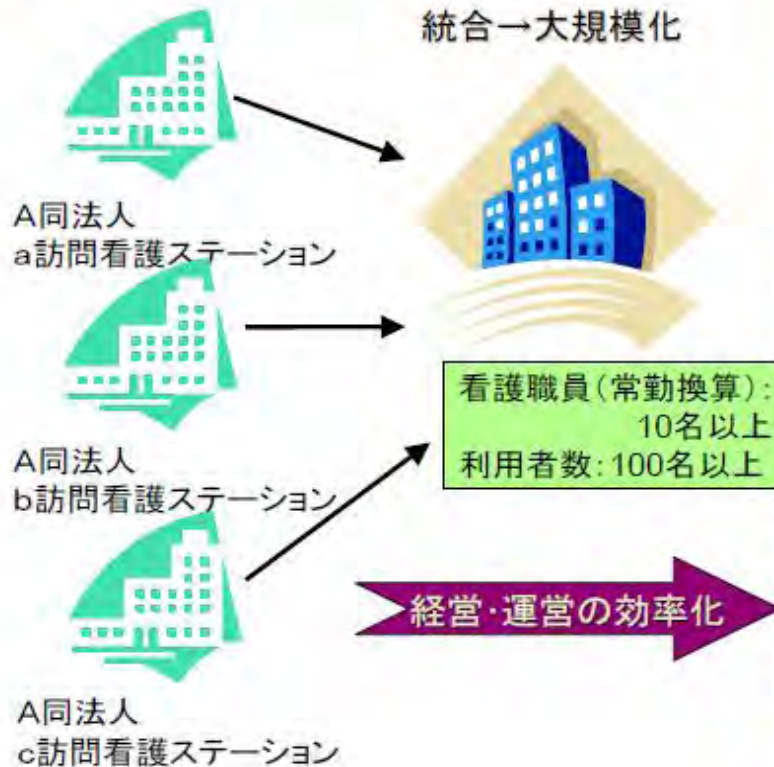


訪問看護ステーション  
大規模化(同法人内)モデル



経営・運営の効率化

【訪問看護マンパワー集約】

- 看護職員(常勤換算)  
10人以上  
(■訪問サービス関連要員  
(リハビリ・ヘルパー)の集約)

【管理・事務業務】

- 分散していた管理・  
事務機能の集約

効率化による効果

【訪問看護回数の拡大】

- 職員一人当たりの  
訪問看護回数の増加
- 新規利用者数の増加
- 多様な利用者への訪問  
の増加
- 24時間訪問の増加

【看護職員確保の安定】

- 夜間携帯当番回数の軽減

【安全・質の確保】

- 研修参加機会の増大

収益増加

↓  
・経営の  
安定  
・事業拡大

# 大規模化モデルの実際

## 同一法人Aステーション

- ・従事者数(常勤換算)
  - 看護職員:9.5人
  - PT・OT・ST:2.0人
  - 事務等:1.0人
- ・利用者数(/月)
  - 介護保険:92人
  - 健康保険:32人
- ・収益(/月):590万円

## 同一法人Bステーション

- ・従事者数(常勤換算)
  - 看護職員:4.2人
  - PT・OT・ST:0.9人
  - 事務等:0.5人
- ・利用者数(/月)
  - 介護保険:45人
  - 健康保険:26人
- ・収益(/月):210万円

現在の規模では①新規利用者を増やせない

②新規事業が困難

## 統合Cステーション

- ・従事者数(常勤換算)
  - 看護職員:11.1人
  - PT・OT・ST:2.8人
  - 事務等:1.0人
- ・利用者数(/月)
  - 介護保険:130人
  - 健康保険:50人
- ・収益(/月):940万円

経営効率が悪い

## 統合による効果

- ①新規利用者の多様化
  - ・小児、・神経難病
  - ・終末期ケアを要する者
  - ・がんで症状コントロールを要する者等
- ②訪問看護を断ることがなくなった
- ③新規事業の展開
  - ・療養通所介護の開始
  - ・ショートステイを計画
- ④経営の効率化
  - 収益の増加
- ⑤研修参加の増加
- ⑥専門領域をもつスタッフ増加→全体の看護の向上
- ⑦夜勤携帯当番回数の減少
  - 10回/月→2-5回/月
  - 休暇取得の増加

経営の安定化・新規事業運営の実現  
訪問看護サービスの質の向上